

大原社会問題研究所五十年史

Ⅴ 戦後

展示会の準備すすむ

さきに決定を見た社会運動資料展示会および講演会開催の準備活動として、六八年三月五日、大島研究員は朝日新聞社企画部デスク水原孝氏を訪ね、同社の後援を要請した。大原研究所と朝日新聞社は、長谷川如是閑、櫛田民蔵、笠信太郎、花田大五郎、木村定氏らに見られるように、古くから両者間に人事交流の関係があり、また研究所が半世紀にわたって集収保存してきた貴重な資料を一般公開する社会的意義は大きく、これらの点から水原氏は好意をもって慎重に検討する旨回答した。

一〇日七日、朝日新聞社の水原デスクと立石企画部員が来所、展示予定品の下見をした後、展示会の具体案について研究所側と打合せをした。その後、都内各デパートと折衝の末、東急デパート日本橋店(旧白木屋)が展示会場を提供し各種の協力を約したむね水原氏より連絡があった。そこで年末の二五日、大島所長、二村研究員は朝日企画部に水原デスクを訪ね、ここに大原研究所・朝日新聞社共催のもとに、明年五月、東急日本橋店で展示会を開催することにほぼ意見が一致した。

しかし開催時期の点で問題があった。研究所側としては、東急側の予定している五月開催は年鑑原稿執筆期間と重なることもあり、むしろ一〇月または一一月開催が望ましいとの研究員の意図にしたがい朝日側にこの旨申入れた。しかし会場の都合で延期は不可能とわかり、結局、困難を犯しても五月開催にふみきることになった。

六九年一月、再度朝日側と打合せの結果、両者共催による五月下旬開催が本ざまりとなり、同月二四日、朝日(水原、立石氏)、東急百貨店(大津、小谷氏)と研究所側の三者で展示資料を点検し、二村、石島両所員を中心にリスト・アップ作業にはいった。この作業と併行して、展示品目の最終決定と説明文案作成をいそぐことになり、項目別に各研究員の担当をきめ全力をあげて準備活動にはいった。

他方、展示会と同じ時期に開催する記念講演会は、朝日との共催で東京有楽町・朝日講堂で、大内兵衛、美濃部亮吉(都知事)、中村哲(法大総長)諸氏を講演者として開催することをきめ、その準備をすすめた。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

